

授業科目名	教養としての音楽史入門	科目コード	配当年次	単位
担当教員	中村 真由子	GA27	1	2
<b>科目の概要</b>				
<p>音楽に限らず文化の歴史は、ある歴史的なできごとや人物の出現がきっかけになって時代が劇的に変化するわけではなく、一つの時代様式が徐々に新しい形に取って代わる。時代の端境（はざかい）に活躍した作曲家、例えばベートーヴェンの作品には2つの時代の様式が重なっていた時期がみられる。</p> <p>本科目では、クラシック音楽のルーツや歴史（西洋音楽史）を5つの時代に分け、いろいろな作曲家が生きた時代とその生涯について、残した作品を通して理解と親しみをより深める。</p>				
<b>科目の到達目標</b>				
<p>① 音楽史の基本的流れを押さえ、各々の時代にどのような音楽家および作曲家が活躍し、いかなる作品が作曲されたのか理解できる。</p> <p>② 各作曲家の作品が創られた時代背景を踏まえた上で、テキスト付属のCDを積極的に活用しながら、曲ごとの音楽的特徴と作曲家が活躍した時代の音楽様式を理解することができる。</p>				
テキスト	『大人の音楽史入門』長沼 由美 他, ヤマハミュージックメディア, 2007年			
<b>テキストの読み方</b>				
<p>テキストでは西洋音楽の歴史を、「古代～中世」「バロック時代」「(前古典派の時代)・古典派の時代」「ロマン派の時代」「近・現代」の5つの時代に区分して記されている。学習するにあたっては、まず年表を確認し、「音楽史」と「世界の主なできごと」を照らし合わせて各々の時代の流れを把握する。その上で以下4点に留意して学習を進めること。</p> <p>① 各時代における音楽様式の特徴。</p> <p>② 各時代を代表する作曲家の生涯および時代背景。</p> <p>③ 各々の作品がいかなる音楽的特徴を有し、西洋音楽史上どのように位置付けられているのか。</p> <p>④ 実際の音楽がどのような曲なのかを、テキストに表示があるごとに必ずCDを聴いて確認する。</p>				
<b>単位修得の方法</b>				
<p>① リポート課題を提出し、60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、2単位を修得できる。</p> <p>または、</p> <p>② スクーリングを受講し、合格すれば2単位を修得できる。この場合、リポート課題の提出と科目修得試験の受験は不要。</p>				